

自然史博物館紹介  
和歌山県立自然博物館  
高山達子

静岡から約3時間半、新幹線と特急くろしおを乗り継いで海南市の和歌山県立自然博物館に行ってきました。

和歌山県立自然博物館には去年までNPO自然博ネットの職員だった、佐々木歩さんが学芸員として働いています。今回は残念ながら、お会いすることはできなかったのですが、留守の所にこっそりお邪魔してきました。

和歌山県には和歌山県立博物館（和歌山市）と和歌山県立自然博物館（海南市）があります。名前も似ていてちょっと紛らわしいですね。

生き物系の展示をしている和歌山県立自然博物館は1982年に開館した、植物・動物・地学等自然科学に関する資料の収集・保管・展示と調査研究を目的とした博物館です。

博物館に到着するとまずは、カツオクジラ（和歌山県沖などにいる体長の小さい沿岸型ニタリクジラと呼ばれていたクジラが2003年に新種として新たに記載されました。）の全身骨格標本が出迎えてくれます。なかなかカッコいい標本です。そういえば、入場券の写真にもこの標本が使われています。

館内は、ちょっと予想と違って、水族館のようでした。生体展示が多く意表を突かれました（歩さん談：「飼育展示が多いので全国的にも珍しい博物館だと自負しています」）。大きな水槽「黒潮の海」にホシエイ、マダラエイやツバメウオ、大きな口ウニアジが泳いでいました。その後も水槽がずらっと並んでいます。ミズクラゲにチンアナゴ、ウツボ類、甲殻類にいろいろな水槽があります。これらはすべて、和歌山県産の生きものだそうです。

そして、いろいろな標本を手で触ることが出来るコーナー「手でみる魚の国」がありました。本物と模型とがいろいろ触れるようになっていて、とても楽しい展示です。

その後もさらにいくつかの水槽に小さな生きものがいろいろいます。小型魚類やナマコ、ウニ、ヒトデ、ウミウシ、貝類、オニイソメ、シャ



和歌山県立自然博物館展示「手でみる魚の国」

コ、カニ類、ヤドカリ、ウミエラなど分類群は多岐にわたっています。じっくり、1つの種と向かい合ってみることが出来ました。淡水の生きものの水槽（淡水魚類、貝類、ゲンゴロウ類、アカハライモリ、サワガニ、モクズガニ、水生植物など）もありました。

その後、角を曲がるとキツネとタヌキの剥製があります。ここから陸の生きものの展示です。こちらはさすがに生体展示ではありませんが、コンパクトに、哺乳類、鳥類、昆虫、粘菌やキノコ、植物の種子、貝類等が展示されています。那智の原生林がジオラマ風になっていたり、引き出しの中にいろいろな標本が入っていたりと、工夫を凝らした作りです。最後に和歌山の化石や岩石の展示がありました。モササウルスという海棲爬虫類の大きな産状レプリカが、展示されています。このモササウルスの化石は全身骨格の50%以上があり、全身骨格の復元も可能かもしれないそうです。

コンパクトだけど中身の濃い素敵な博物館でした。

和歌山県立自然博物館は、施設の老朽化や津波対策として、海から離れた高台に移転することが決まっているそうです。水族館のような、今の博物館を見られるのは、あと数年だけかと思われれます。